

「羅針盤」vol.23

校長 白岩博明

「卒業茶会」に招かれて

1月17日(金)、高校3年生の「卒業茶会」が行われ、各クラス(4クラス)の茶会にお招きいただきました。

生徒は「茶道」を通じて、茶の作法は勿論のこと、他所とのコミュニケーションの基本である間の取り方、挨拶などの礼儀の大切さを学んできました。また、「茶道」を通して日本の文化や伝統が日々の暮らし中で生きていることを学んできました。「茶道」を3年間学び、その成果を示す茶会でもあります。

厳かな雰囲気にもまれた素敵な時間でした。茶会に向かう一人ひとりの所作が大人びて感じたのは成長の証なのでしょう。クラスによってはこの日のために“卒業ビデオ”?を準備したクラスもありました。お世話になった先生方や仲間へのメッセージをしたため、涙、涙で茶会を終えていました。

3年生のみなさん、お招きいただきありがとうございました。卒業まであとわずか。寂しくなるねえ。



臨時の全校朝礼で伝えたこと

1月17日(金)、近隣の方から本校へ苦情のメールが届きました。そのメールの内容は、「貴校生徒が八幡川沿いでたむろし、ゴミを片付けないことが頻発しています。見回りに行くと、空き缶が川に投げ捨てられていました。以前の学校の時はこんなことはありませんでした。生徒の質が低下しているのですか? 近隣の住民を悩ますような生徒が通うような学校はいりません」といったものでした。時折、通学マナーなどについて電話でご指摘いただくことはありますが、ここまでのメールをいただいたことはありませんでした。すぐに生徒に伝え、行動改善と本校生徒としての自覚を改めて促すために、20日(月)、急遽、全校朝礼を行いました。

具体的な事実内容を伝える前に、私から次のことを話しました。「近隣の方からみんなのマナーの悪さを指摘するメールが届いた。内容は後で話すが、厳しい口調で学校の存在を否定するような中身だった。残念でならない。一部の、数人の生徒が関与したことだけど、他人事ではなく、自分事として改めて一人ひとりの心の持ちよう、行動のあり方を振り返ってもらいたい。これまでに、時間を守る、友だちを大切にする、挨拶をすることを大切にしようなどの基本的にやり通して欲しいことについて触れたり、AIM HIGH(高みを目指す)という目標を設定したことに触れたりして普段の生活に張りを持たせようと話してきた。しかし、人は一人で生きるには弱い生き物だ。私もそうで、妻や我が子、友人、本校の先生方と話し、時に力を借りながらではないと踏ん張れないときがある。いや、その方が多いと言ってもいい。ところが、複数的人数で事にあたる時、素晴らしいパワーを発揮するときもあれば、逆に気を許し過ぎて善悪の判断が鈍くなってしまふこともある。取り返しがつかないことに発展することもある。このときだと思う。友人や仲間と行動を共にし、その行動に何かしら違和感が生じたときに勇気をもって正しいと思えることを共にする人に伝えられるかどうか。これが重要だと思う。『人間』という漢字は、人との間に人がいるから生きていく(いける)という意味だと思う。もう一度振り返って欲しい、これまでの行動を。個人としてもそうだが、友人や仲間との行動を。協創という意味を改めて考えて、自覚を持って進んでいこう」と。この後、生徒指導部長から具体的な話と今後の指導について話しました。

現在、当該生徒への指導を行っております。近隣のみなさま、本当に申し訳ございませんでした。